

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52105	畜産関係事務費		担当課	農政部畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまがして	
	項	5	農林水産業費	分野	4	畜産業	
	目	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する	
	目	1	畜産総務費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備	
実施計画事業							
市長の約束							
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業者(肉用牛・乳用牛・養豚・養鶏)	受益者数	276
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	高山市の畜産振興の向上		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨畜産振興会の活動支援、畜産物PRのための旅費、畜産委員への報償等		
前回の評価からの改善・改革のポイント	東日本大震災の影響における、畜産物の消費の減退等厳しい経営環境の中で、意欲ある畜産農家の育成。高品質な飛騨牛ブランドをはじめとする飛騨の畜産物全体のPRを全国各地で行うことによるブランド力の向上及び生産者の収益向上などの畜産振興の向上			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	① 肉用牛飼養頭数の増頭	%	目標値	3,600	3,600	3,700	3,800
			実績値	3,568	3,509	3,441	-
	算出根拠等	飼養頭数/目標頭数	達成率(%)	99	97	93	-
	算出根拠等		達成率(%)				
成果指標	① 肉用牛飼養頭数の増頭	%	目標値	3,600	3,600	3,700	3,800
			実績値	3,568	3,509	3,441	-
	算出根拠等	飼養頭数/目標頭数	達成率(%)	99	97	93	-
	算出根拠等		達成率(%)				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)		106,282	107,223	110,582	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)		36	36	36		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		30	30	30		
	一般財源		106,216	107,157	110,516		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)	受益者	393,637	388,489	394,936		
		農業者	270	276	280		
	② 算出根拠等	国の頭羽数調査に報告したもの					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・各種肉牛の共進会において上位成績を上げることに飛騨牛ブランドを確立できる。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・市民へ安心・安全の理解を深めていただくために物産展への積極的参加
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	各種共進会において上位入賞をすることにより飛騨牛のPRにもつながるとともに市民の方にも安心して食べていただける肉を提供できる。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	和牛のオリンピックとも言われている第10回全国和牛能力共進会上位入賞をめざし岐阜県では予選会等が開催され出品する牛を絞り込んでいる。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	畜産委員を通じて各種団体へ情報提供を行い今後の畜産振興に役立てる。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	飼料の高騰、宮崎における口蹄疫の発生、畜産物の消費の減退等厳しい経営環境の中で、意欲ある畜産農家の育成。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	飛騨牛ブランドを強力にアピールできる、全国和牛能力共進会出場に向けての牛づくり、人づくり
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	飛騨牛ブランドを全国にアピールし飛騨牛の消費が増えることにより畜産農家の増頭意欲もてくれることからコストは適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	意欲ある農家が増えれば増頭も可能になることから畜産農家の育成が大切になる。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	飼料の高騰、宮崎における口蹄疫の発生、畜産物の消費の減退等厳しい経営環境の中で、意欲ある畜産農家の育成。 上位入賞することにより全国に飛騨牛ブランドを強力にアピールできる、全国和牛能力共進会出場に向けての牛づくり、人づくり。				
総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・外国製品との競合、家畜伝染病や風評被害の発生など飛騨牛をはじめとする地域ブランドを守る上で脅威となる事案に対し、より迅速に対応できる体制を整備していく必要がある。				
議会からの 提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	962	1,563	601	960	960
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	66	67	1	66	66
一般財源	896	1,496	600	894	894

予算要求の概要	飛騨畜産振興会の活動支援、畜産物PRのための旅費、畜産委員への報償等
要求額増減理由	飛騨牛をはじめとする畜産物全体のPR強化PRパンフレットの作成
事業実施の課題	飼料の高騰、宮崎県における口蹄疫の発生、東日本大震災におけるセシウム問題等による畜産物の消費の減退等厳しい経営環境の中で、意欲ある畜産農家を育成する

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査し前年並み事業費とする
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業名	52201	畜産担い手育成総合整備事業	担当課	畜産課	内線	2239
種別	会計	1 一般会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
予算	款	5 農林水産業費	分野	4 畜産業		
	項	2 畜産業費	基本施策	1 安定した畜産経営を整備する		
	目	2 畜産振興費	施策	1 競争力のある生産基盤の整備		
実施計画事業	畜産担い手育成総合整備事業					
市長の約束	3	飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産振興策に取り組みます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業者(肉用牛・乳用牛・養豚・養鶏)	受益者数	276
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	安全安心な畜産物の供給を図るために「飛騨牛」の増頭を推進するとともに、「飛騨高山ブランド」の強化による産業の振興と、自給飼料に立脚した畜産経営の育成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	草地造成、放牧施設の整備及び機械の導入。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	環境問題に配慮した事業実施計画の作成。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	① 肉用牛飼養頭数の増頭	頭	目標値	-	3,600	3,700	3,800
			実績値	-	3,509	3,441	-
	算出根拠等	飼養頭数/目標頭数	達成率(%)	#VALUE!	97	93	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	②		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	① 肉用牛飼養頭数の増頭	頭	目標値	-	3,600	3,700	3,800
			実績値	-	3,509	3,441	-
	算出根拠等	飼養頭数/目標頭数	達成率(%)	#VALUE!	97	93	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト指標	②	%	目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
	事業費(人件費を除く・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額		
歳出(千円)	(A)	33,352	53,086	74,295	168,000		
受益者負担(使用料・負担金等)	0	0	0	0			
その他特定財源(国・県支出金・起債等)	28,209	34,544	46,465	0			
一般財源	5,143	18,542	27,830	168,000			
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	11,117,333	53,086,000	74,295,000	10,190,000	
	② 受益者 事業参加者	(B)	3	1	1	2	
算出根拠等	実際に事業に参加した農家(公共牧場)の数						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・市長マニフェストにある和牛繁殖雌牛4,000頭を達成させるためには、公共牧場の充実や増頭意欲のある農家に対して助成をすることで目標達成につながる。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・公共牧場利用のニーズは年々増加傾向にある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・事業を実施することで「飛騨牛ブランド」の強化につながり、畜産農家の収入向上や、流通・販売、観光産業に至るまで市民全体に効果が及ぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・概ね計画通り事業が進捗している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・公共牧場を充実させることによって利用できる農家が増え、増頭意欲も増すため有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・昨年度からの繰り越し分を速やかに実施している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・補助事業のためコスト縮減はない。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・公共牧場の草地造成のため受益者負担はない。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・事業実施中により成果は未定。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	18.0 / 20.0		100点換算	90 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	今年度と同じ方向性で事業を推進する予定。				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成24年度の終了年度に向け、農家のニーズを踏まえて、着実に事業実施する必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	74,295	9,295	△ 65,000	9,485	9,485
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	46,465	5,425	△ 41,040	5,420	5,420
起債					
その他				1,060	1,060
一般財源	27,830	3,870	△ 23,960	3,005	3,005

予算要求の概要	市営飛騨御嶽牧場(千町)農機具購入ほか
要求額増減理由	事業量の減(計画の最終年度)
事業実施の課題	自給飼料基盤の充実 肉用牛の増頭(目標4,000頭)

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業名	52215	後継者等肉用牛貸付事業		内線	2239
種別				農政部	畜産課
予算	会計	1	一般会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5	農林水産費	分野	4 畜産業
	項	2	畜産費	基本施策	1 安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費	施策	3 新たな担い手の確保
実施計画事業	後継者等肉用牛貸付事業				
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家・酪農家	受益者数	223
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	飛騨牛繁殖基盤・酪農経営基盤の確保並びに拡大を行い畜産基盤の経営安定を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	肉用牛繁殖雌牛の5年間無償貸付、乳用雌牛の3年間無償貸付。		
前回の評価からの改善・改善のポイント	国の事業廃止により、今年度国庫補助分を返還終了。県補助分は残るので、県と相談しながら乳用牛の保留導入に対しても該当するように拡大するもの。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績			
			H21	H22	H23見込	H24計画
① 貸付頭数	頭	目標値	75	75	75	75
		実績値	75	43	75	-
	算出根拠等	達成率(%)	100	57	100	-
②	頭	目標値				
		実績値				-
	算出根拠等	達成率(%)				-
① 肉用牛繁殖雌牛、乳用雌牛飼養頭数	頭	目標値	3,650	3,510	3,441	4,852
		実績値	3,509	3,441		-
	算出根拠等	毎年度2月1日現在頭羽数調査	達成率(%)	96	98	
②	%	目標値				
		実績値				-
	算出根拠等	達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)		36,398	24,376	38,956	31,000
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(基金繰入金)		36,398	24,376	38,956	31,000
	一般財源					
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		162,491	112,852	180,352	139,013
	② 受益者 肉用牛繁殖農家・酪農(B)		224	216	216	223
	算出根拠等					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	A	繁殖雌牛の飼養頭数4,000頭をめざす保留・導入事業の一つ。増頭でなくても特別優秀でなくても利用でき、零細な農家にとっては県外導入や更新等でも手軽に利用できる。
	C(0) 結びつかない			
	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある		
C(0) 少ない、減少している				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C	小規模・零細な農家にとって、繁殖雌牛の育成は大きな出費となるので、5年間の猶予は助かる。又大規模農家にとっては、他にも有利な貸付制度が有り、利用が少ない。
	C(0) わずかな受益者に限定される			
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
C(0) あまり順調でない (75%未満)				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	A	利用農家にとっては、繁殖雌牛育成にかかる基畜経費を先送りし、頭代等で育成できる事から経費を分散でき、頭数・経営維持に効果がある。
	C(0) 見直しが必要である			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
C(0) 対応していない				
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	A	これまでは国の事業で実施方法がかなり制約されていたが、今年度で国庫補助金分の返還が終了する事から、来年度に向けての事業内容等の見直しをう検討している(県と相談の上実施)。
	C(0) 対応していない			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	B	高齡化や病氣、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H21→22 戸数▲3.6%、頭数▲1.9%)
	C(0) 改善が必要である			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	B	農家戸数は年々減少しており、受益者が少ないので、この位で適正である。
C(0) 改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	B	高齡化や病氣、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H21→22 戸数▲3.6%、頭数▲1.9%)
	C(0) 改善が必要である			
合計	12.0 / 20.0		100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	繁殖農家にとって有効な事業なので内容等の見直しをしながら続ける。 国の事業廃止により、国庫補助分を返還中(今年度まで)であり返還後の貸付内容等実施方法について見直しが必要と思われる(県補助分もあるため、県と相談しながら)。				
総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。				
議会からの 提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	38,956	31,000	△ 7,956	31,000	31,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	38,956	31,000	△ 7,956	31,000	31,000
一般財源					

予算要求の概要	肉用牛繁殖雌牛後継者等貸付 肉用牛繁殖雌牛高齢者貸付 乳用牛保留・導入貸付
要求額増減理由	国の事業廃止による国庫補助分の返還終了
事業実施の課題	乳用牛の保留導入への対応

財務部査定の考え方	・肉用牛に対する例年並みの事業費を確保 ・乳用牛貸付については、ニーズ把握・見込まれる成果や目標設定・組立てなどの検討が不十分であるため拡大しない
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52220	家畜防疫衛生事業		担当課	農政部 畜産課	内線	2237
予算	会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまりをめざして	
	款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業	
	項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目	2	畜産振興費	施策	2	安全で安心な畜産物の供給	
実施計画事業	家畜防疫衛生事業						
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。畜産業の安定化を実現します。産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強化に取り組みます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家	受益者数	276人
目的	どういう状態にしたいのか(意図) 家畜伝染病の発生予防に努め、高品質な畜産物の安心安全な生産・供給による畜産経営の向上を図る。		
概要	事業の実施手法(手段) 家畜伝染病調査及び発生・拡散防止 家畜伝染病予防消毒事業補助 法定伝染病予防接種補助		
前回の評価からの改善・改革のポイント	家畜伝染病対策マニュアルの作成		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	家畜伝染病予防補助(消毒機器購入補助)	千円	目標値			1,000	
			実績値			-	
算出根拠等 補助額100千円×10セット			達成率(%)			-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
②	法定家畜伝染病予防接種(ニューカッスル病)	羽	目標値	150,000	150,000	153,000	153,000
			実績値	150,304	150,658	153,000	-
算出根拠等 5円/羽×50%			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	肉用牛の頭数	頭	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000
			実績値	3,509	3,441		-
算出根拠等 国の頭羽数調査			達成率(%)	88	86		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)		2,529	2,288	2,408	2,400	
	受益者負担(使用料・負担金等)		0	0	0	0	
	その他特定財源(家畜診療等雑入)		1,537	1,537	1,537	1,500	
コスト面	一般財源		992	751	871	900	
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)(A/B)		9	8	8,725	8,696	
	受益者 畜産農家数(B)		290	270	276	276	
算出根拠等		家畜防疫衛生事業/畜産農家数					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	A	・各種防疫事業を行うことにより家畜伝染病を未然に防ぐことができ被害の拡大を未然防止に努めることができる。
	C(0) 結びつかない			
	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある		
C(0) 少ない、減少している				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	A	・伝染病等が発生することにより飛騨牛というブランドが崩れることから畜産農家のみならず観光業(サービスマ)等にも大きく影響がある。
	C(0) わずかな受益者に限定される			
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
C(0) あまり順調でない (75%未満)				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	B	・予防の必要性を理解していただき家畜伝染病の発生を未然に防ぐ。
	C(0) 見直しが必要である			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
C(0) 対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	B	・直接的なコスト削減はないが長い目で見るに家畜伝染病が発生する前の予防は大切なコスト削減につながる。
	C(0) 対応していない			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	B	・概ね適当である
	C(0) 改善が必要である			
	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
合計			15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善						拡大		縮小		廃止の検討		完了	
	今年度と同じ方向性で事業を推進する予定。													
総合評価(二次評価)	・鳥インフルエンザや口蹄疫、BSEなどの発生に備え、対応マニュアルを早期に策定し、周知徹底を図りながら、国・県・市・農業団体などとの役割分担の明確化、実践的訓練の実施など、実効性ある取組みを進めていく必要がある。 ・平成22年度事業評価において、家畜診療業務については、民間委託も視野に入れるとともに、一層の防疫体制の強化を図る必要があるとの指摘を行っており、引き続きこうした取組みを行う必要がある。													
	議会からの提言等													

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	2,408	3,431	1,023	1,408	1,408
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	1,537	1,537		1,408	1,408
一般財源	871	1,894	1,023		

予算要求の概要	家畜伝染病浸潤状況調査 法定伝染病予防助成(ニューカッスル病) 県外導入豚オースキー病検査
要求額増減理由	家畜伝染病予防のための対策経費の増
事業実施の課題	伝染病の浸潤状況の調査結果をもとに陽性牛の淘汰指導を行うに当たり、市単独の取り組みには限界があり、国レベルでの早急な具体策の提示を求めている必要がある

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業名	52225	家畜人工授精事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
種別							
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをぞぎして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備
実施計画事業	家畜人工授精事業						
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します					

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家(肉用牛・酪農家)	受益者数	246
目的	どういう状態にしたいのか(意図) ・優良子牛の生産、増頭により改良増産を推進し、農家の経営安定を図る		
概要	事業の実施手法(手段) ・家畜改良、増産の推進を図る ・和牛、乳牛の家畜人工授精 ・和牛、乳牛の受精卵移植・採		
前回の評価からの改善・改革のポイント	人工授精業務委託地区の拡大		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	① 家畜人工授精実施回数	回	目標値	1.6	1.6	1.5	1.5
			実績値	1.8	1.8	1.7	-
	算出根拠等	達成率(%)	113	113	113	-	
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	② 家畜受精卵移植実施回数	回	目標値	220	220	220	220
			実績値	218	181	180	-
	算出根拠等	達成率(%)	99	82	82	-	
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	① 平均授精回数	回	目標値	1.5	1.5	1.5	1.5
			実績値	1.7	1.7	1.7	-
	算出根拠等	毎年度2月1日現在頭羽数調査	達成率(%)	113	113	113	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト指標	②	%	目標値				
			実績値				-
	算出根拠等	達成率(%)				-	
	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額		
歳出(千円)	(A)	23,374	22,810	23,988	24,000		
受益者負担(使用料・負担金等)	8,778	7,095	9,815				
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源	23,374	22,810	23,988	24,000			
指標名	H21	H22	H23見込	H24計画			
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	6,558	6,500	6,795	6,667	
	受益者	頭羽数	(B)	3,564	3,509	3,530	3,600
	② 畜産農家(肉用牛・酪農家)	241	246	247	247		
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	「飛騨牛」ブランドの維持・拡大を図るため、人工授精や受精卵移植等により優良な繁殖用雌牛確保と肥育養牛生産のため必要である。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	「飛騨牛」ブランド確立は、サービス業はもとより、多くの市民の関心を高めている。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	安心・安全で優良な牛肉は消費者全体におよぶ
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	人工授精、受精卵移植により優良子牛の生産により「飛騨牛」のレベルアップが図られた。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	受精・移植の受胎率の向上。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・授精、移植の更なる受胎率の向上により、経費の節減を図る。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	受胎率の向上等により経費削減に努めた。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	概ね適正であると思う。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	C	人件費等考慮した場合多少の改善が必要である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	11.0 / 20.0		100点換算	55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善						拡大		縮小		廃止の検討		完了	
	「飛騨牛」ブランドの維持・拡大を図るため、コストを抑えつつ、最大の効果を上げることが必要である。													
総合評価(二次評価)	平成22年度事業評価において、人工授精件数は減っているものの、委託料は減少していないため、契約内容を見直すなど更なるコスト削減が必要であるとの指摘を行っており、引き続きこうした対応を行う必要がある。													
議会からの提言等														

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	23,988	26,373	2,385	24,630	24,630
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	9,815	7,493	△ 2,322	9,415	9,415
一般財源	14,173	18,880	4,707	15,215	15,215

予算要求の概要	優良牛の増産・増頭のための農家支援、最新技術の導入による生産者の収益向上対策 人工授精業務委託
要求額増減理由	人工授精業務委託地区の拡大による増
事業実施の課題	委託内容の見直し 受精卵移植の最新技術の導入・取得 優良雌牛の増頭指導

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査 ・人工授精業務の委託範囲を拡大
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業名	52227	繁殖牛舎建設支援事業		担当課	畜産課	内線	2239
種別							
予算	会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをぞぎして	
	款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業	
	項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目	2	畜産振興費	施策	3	畜産関連施設の整備	
実施計画事業	繁殖牛舎建設支援事業						
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家(肉用牛)	受益者数	238 戸
目的	肉用繁殖雌牛飼育頭数4,000頭を目指すため、飛騨牛畜産率の向上と飛騨牛ブランドの拡大を図る。		
概要	事業の実施手法(手段) 牛舎建設を行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産法人に対し補助する。 繁殖牛舎 20頭規模 3棟の建設事業費(に対し1/2を助成(上限5,000千円))		
前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績			
			H21	H22	H23見込	H24計画
① 繁殖牛舎建設支援事業	目標値	円			15,000	15,000
	実績値					-
	算出根拠等					-
	達成率(%)					-
②	目標値					-
	実績値					-
	算出根拠等					-
	達成率(%)					-
③	目標値					-
	実績値					-
	算出根拠等					-
	達成率(%)					-
④	目標値					-
	実績値					-
	算出根拠等					-
	達成率(%)					-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				15,000	15,000
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源				15,000	15,000
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)				5,000,000	5,000,000
	② 受益者 参加希望農家数 (B)				3	3
	算出根拠等					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・増頭意欲がある畜産農家に対し市の補助事業を利用していただき市長公約である4千頭を目指す。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・生産者の経営改善指導を行い、事業の推進を図る。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・増頭することにより岐阜県のブランド「飛騨牛」が増え、多くの市民または観光客に購入していただくことができる。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	H23新規事業のため
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・肉用牛4,000頭目標達成のための手段としてはおおいに有効性はある。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	・今年度の事業進捗状況のみきわめ改善内容等を検討したい。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	・規模拡大することによりコストは削減することができる。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・1棟あたりのコストは多額の資金が必要となるが長期的にみれば概ね適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・規模拡大することによりコストは下がる。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 16.0		100点換算 → 81 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善					拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・今年度の動向を見ながら次年度の方向性を見極める必要がある。								
総合評価(二次評価)	・新規参入や事業規模の拡大を促進するため、H23より繁殖牛舎の建設事業費に対する助成制度を開始しているところであり、肉用牛飼養頭数4,000頭の目標達成を目指し、制度の周知や利用促進を行う必要がある。								
議会からの 提言等									

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	15,000	15,000	0	15,000	15,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	15,000	15,000	0	15,000	15,000

予算要求の概要	畜産農家の負担軽減による牛舎建設の促進・増頭推進を図る
要求額増減理由	
事業実施の課題	事業費が多額であることから農家の負担が大きい畜産農家の高齢化

財務部査定 の考え方	・要求どおり
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52230	家畜改良推進事業費	担当課	農政部	畜産課	内線
	審核					
予算	会計	1	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5		分野	4	畜産業
	項	2		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2		施策	2	安全で安心な畜産物の供給
実施計画事業 家畜改良推進事業						
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現する為、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家(肉用牛・乳用牛・豚・鶏)	受益者数	276
目的	家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種共進会を開催することにより、特産物のブランド化及び、農家の意欲向上による増産を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	品評会の開催	
前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画		
				目標値	実績値				
①	肉用牛飼養頭数の増頭	頭	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000		
			実績値	3,509	3,441		-		
算出根拠等	飼養頭数/目標頭数		達成率(%)	88	86		-		
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画		
				目標値	実績値				
②			目標値						
			実績値				-		
算出根拠等			達成率(%)				-		
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画		
				目標値	実績値				
①		頭	目標値						
			実績値				-		
算出根拠等			達成率(%)				-		
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画		
				目標値	実績値				
②		%	目標値						
			実績値				-		
算出根拠等			達成率(%)				-		
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21	H22	H23	H24		
	歳出(千円)(A)			決算額	決算額	予算額	実施計画額		
				553	541	2,070	1,650		
	受益者負担(使用料・負担金等)								
財源内訳	その他特定財源(家畜診療等収入)			424	424	424			
	一般財源			129	117	1,646	1,650		
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画		
				①	受益者1件当たり(円)(A/B)	2,048	1,960	7,393	5,893
				②	受益者 農業者 (B)	270	276	280	280
				算出根拠等	国の頭羽数調査に報告したもの				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	各種共進会を開催することにより農家間の意欲向上及び家畜の改良が図れる。	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		A	飛騨牛のブランド化を図り「安心・安全」をPRし市民のニーズの高いものにする。	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		A	共進会を開催し上位入賞することにより飛騨牛ブランドを市民の方や全国の方に多く知っていただける。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		B	5年に1回開催される全国和牛能力共進会が来年長崎県で開催される予定でその予選会が岐阜県内においても始まっており高山市の畜産農家も候補に選ばれている。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		A	何回か品評会を開催することにより優れた牛が選抜され次世代の飛騨牛候補が生まれてくる。	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	アジアへの海外販路が東北の震災の影響で予定どりの輸出が進んでいない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	飛騨牛以外の畜産物を今後どのようにブランド化していくのかコストも考え改善していく必要がある。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		A	飛騨牛を全国ブランド化することにより市民への「安心・安全」の意識は高まり受益者にとっても1件当たりのコストは適正である。	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	共進会等により飛騨牛のブランド化が進めばコストは十分適正である。	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				17.0 / 20.0	100点換算	85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	飛騨牛ブランドの「安心・安全」をPRするためにも今度拡大する必要性はある。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成24年度に長崎県内で開催される全国和牛能力共進会は、飛騨牛ブランドの全国発信には非常に有効な機会であり、好成績をおさめられるよう引き続き支援していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	2,070	6,302	4,232	4,670	4,670
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	424	424	0	424	424
一般財源	1,646	5,878	4,232	4,246	4,246

予算要求の概要	高山市畜産共進会開催経費 飛騨・岐阜県畜産共進会関係経費 第10回全国和牛能力共進会関係経費 乳牛共進会関係経費
要求額増減理由	第10回全国和牛能力共進会関係経費の増
事業実施の課題	飛騨地域3市での足並みを揃えた支援

財務部査定の考え方	・積算内容を精査 ・全国和牛能力共進会関係経費の増
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52235	牧場放牧事業		担当課	農政部畜産課	内線	2237
種別	1						
予算	会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをぞぎして	
	款	5	農林水産事業費	分野	4	畜産業	
	項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備	
実施計画事業	牧場放牧事業						
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産振興に取り組みます					

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家(肉用牛飼養農家)	受益者数	210人
目的	どういう状態にしたいのか(意図) ・夏山冬里方式の飼養管理として放牧推進を図り、他農業との複合経営の確立、飛騨牛の低コスト生産及び増産を図る		
概要	事業の実施手法(手段) ・放牧場の整備、充実を図るとともに、適正な牧場利用調整、推進を行う		
前回の評価からの改善・改革のポイント	・適正な施肥管理による牧草草勢の維持による早期入牧、下牧延長等の利用延べ頭数の調整		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績			
			H21	H22	H23見込	H24計画
① 放牧延べ頭数	頭	目標値	72,000	72,000	72,000	72,000
		実績値	72,893	67,105	72,000	-
	算出根拠等	達成率(%)	101	93	100	-
②	頭	目標値				
		実績値				-
	算出根拠等	達成率(%)				-
① 放牧延べ頭数	頭	目標値	72,000	72,000	72,000	72,000
		実績値	72,893	67,105	72,000	-
	算出根拠等	達成率(%)	101	93	100	-
②	頭	目標値				
		実績値				-
	算出根拠等	達成率(%)				-

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算額	予算額	実施計画額
歳出(千円)	(A)	18,976	18,247	19,400	18,200
受益者負担(使用料・負担金等)		10,934	10,066	10,800	10,000
その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0
一般財源		8,042	8,181	8,600	8,200

コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	260	272	269	253
②	受益者 放牧延べ頭数	(B)	72,893	67,105	72,000	72,000
算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画、市長公約にも位置付けられ、飛騨牛の安定生産、飛騨牛ブランドの向上においても重要である
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・飛騨牛の低コスト生産と畜産労働力の軽減につながるニーズが高い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	・畜産経営農家に限定されるが、飛騨牛の低コスト生産につながる、結果、市民への消費拡大につながる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・おおむね達成しているが、国内の家畜伝染病の発生をうけ、防疫上の問題等で利用者が少し減少した
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・牧場の草生の状況に応じた利用頭数の調整、草地造成等の面積拡大により入牧頭数の増頭を図っている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・家畜伝染病等の対策も考慮し、新規利用者の拡大、利用頭数の増加のための工夫が必要である ・土壌分析による施肥管理の検討が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・受益者負担としての牧場使用料の見直しを検討中である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	・事業経費と受益者負担とのバランスの改善として、牧場使用料の見直しを検討する必要がある
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・生産農家の経営改善を図り、使用料の見直しを視野に入れ利用頭数の増加を図る。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	10.0 / 20.0			100点換算 → 50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	方向性					
	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了	
・適正な牧草の施肥管理のための土壌分析等を検討する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
総合評価(二次評価)	・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。					
議会からの 提言等						

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費 (人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	19,400	29,312	9,912	19,600	19,600
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	10,800	10,602	△ 198	10,800	10,800
一般財源	8,600	18,710	10,110	8,800	8,800

予算要求の概要	牧場の維持管理費 放牧牛の健康管理費・防疫対策費 牧場施設の修繕費
要求額増減理由	牧場施設の修繕費の増 牧場維持管理のための土壌分析診断の増
事業実施の課題	伝染病予防対策(防疫対策)としての家畜伝染病の抗体保有牛と陰性牛の区分け及び牧場の入牧制限 牧草草勢の弱体化による土壌改良の必要性 指定管理者制度の導入検討

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査 ・繁殖牛放牧事業補助金の増
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52245	優良飛騨牛固定推進事業		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
種別	1	一般会計		政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
予算	款	5 農林水産業費		総合計画	分野	4 畜産業	
	項	2 畜産業費			基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
目	2 畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備		
実施計画事業	優良雌牛保留対策事業、優良乳用牛確保対策事業						
市長の約束	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖・酪農)	受益者数	241
目的	どのような状態にしたいのか(意図)	・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留または導入する。 ・優良な乳用牛の保留または導入による酪農経営の強化。	
概要	事業の実施手法(手段)	優良飛騨牛、優良乳用牛増頭に対する補助。(優良雌牛保留対策234千円×150頭、優良飛騨牛増頭推進100千円×50頭、優良乳用牛保留・導入対策35千円×30頭)	
前回の評価からの改善・改革のポイント	優良な肉用牛・乳用牛の導入保留		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	優良雌牛保留・導入頭数	頭	目標値	230	230	230	230
			実績値	139	166		-
算出根拠等	達成率(%)		60	72		-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
②			目標値				-
			実績値				-
算出根拠等	達成率(%)					-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	繁殖雌牛・乳用牛飼養頭数	頭	目標値	5,020	4,930	4,870	4,870
			実績値	4,926	4,867		-
算出根拠等	毎年度2月1日現在頭羽数調査		達成率(%)		98	99	-
コスト指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	86,984	119,676	171,542	191,667
			実績値				
算出根拠等	達成率(%)					-	
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21	H22	H23	H24	
歳出(千円)(A)			決算額	決算額	予算額	実施計画額	
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)			7,956	11,641	17,550		
一般財源			13,703	17,201	23,620	46,000	
指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者	肉用牛繁殖農家・酪農(B)	86,984	119,676	171,542	191,667	
			249	241	240	240	
②							
算出根拠等	達成率(%)					-	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など	
			評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	繁殖雌牛の飼養頭数4,000頭をめざす保留・導入事業と、飛騨牛ブランドの強化のための特別優秀な牛の保留・導入を進める2面がある。	
	B (1) 一部結びつく		B	5年間の飼養義務付きで、補助金23万4千は欲しいところだが、特別優秀な牛の為該当牛が少ない面がある。
	C (0) 結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	5年間の飼養義務付きで、補助金23万4千は欲しいところだが、特別優秀な牛の為該当牛が少ない面がある。	
	B (1) ある程度のニーズがある			
	C (0) 少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	畜産農家の減少により、受益者は241戸となったが、飛騨牛のブランド力が高まる事により、飛騨のイメージアップに寄与し観光客誘致につながる。又優良乳用牛の増頭により飛騨牛乳の安定供給につながる。	
	B (1) 概ね市民全体におよぶ			
	C (0) わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	平成22年度 事業の活動・成果指標についての達成率の平均は85.5%となっている。	
	B (1) 概ね達成している (75%以上)			
	C (0) あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	利用農家にとっては、繁殖雌牛育成にかかる畜産費は負担であり、優良雌牛は特に高価で負担が大きいところである。これに対する助成は、飛騨牛のブランド強化、頭数・経営維持に有効である。	
	B (1) 概ね有効である			
	C (0) 見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	優良雌牛事業は3年前に県単事業から国費による畜産協会の事業に大きく制度変更してから、小さな変更を経て農家にもかなり浸透してきたところである。乳用牛の事業は市単で去年改善に取り組み、今年度から変更している。	
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる			
	C (0) 対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	繁殖雌牛4,000頭目標達成には、必要事業であり県単の積極的利用を行っている。	
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる			
	C (0) 対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	農家戸数は年々減少しており、受益者が少ないので、この位で適正である。	
	B (1) 概ね適正である			
	C (0) 改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	高齢化や後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。	
	B (2) 概ね適正である			
	C (0) 改善が必要である			
合計		14.0 / 20.0	100点換算	70 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図るために必要な事業である。				
総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・平成22年度事業評価において、優良乳用牛については、事業者のニーズ調査を実施したうえで、社会情勢等を踏まえた制度としていく必要があるとの指摘を行っており、引き続きこうした取組みを行う必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	41,170	41,170	0	41,170	41,170
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	17,550	17,550	0	17,550	17,550
一般財源	23,620	23,620	0	23,620	23,620

予算要求の概要	高育種優良雌牛より生産された優良雌子牛を保留又は導入する経費に対する助成
要求額増減理由	
事業実施の課題	優良な肉用牛・乳用牛の導入保留

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52247 飛騨牛生産経営安定推進事業補助金	担当課	農政部 畜産課	内線	2239
種別	1 一般会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
予算	5 農林水産業費	総会計面	4 畜産業		
	2 畜産業費	分野	1 安定した畜産経営環境を整備する		
	2 畜産振興費	基本施策	1 競争力のある生産基盤の整備		
実施計画事業	飛騨牛生産経営安定推進事業				
市長の約束	3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します				

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	受益者数	216
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	子牛生産における事故は繁殖経営に大きな打撃を与えるため通常、飛騨牛農畜共済事務組合が取り扱う家畜共済に加入するが、共済対象外の事故も発生し大きな打撃になることから、そういった事故に備えるように組合員相互で互助制度を行うための基金を造成するので、その基金造成に対し一部を助成する。	
概要	事業の実施手法(手段)	高山市和牛改良組合が実施する、家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のための基金造成に対して一部助成する。	
前回の評価からの改善・改革のポイント	組合員相互の連携強化と意欲的な「飛騨牛」の改良生産強化		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	加入頭数	頭	目標値	3,900	3,900	3,900	3,900
			実績値	3,444	3,406		-
算出根拠等			達成率(%)	88	87		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	繁殖雌牛飼養頭数	頭	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000
			実績値	3,509	3,441		-
算出根拠等	毎年度2月1日現在頭羽数調査		達成率(%)	88	86		-
コスト面	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	2,308	2,681	4,286	6,190
			実績値	224	216	210	210
算出根拠等			達成率(%)				-

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)	517	579	900	1,300
受益者負担(使用料・負担金等)				
その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
一般財源	517	579	900	1,300

①	受益者	肉用牛繁殖農家 (B)	224	216	210	210
②						
算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	A	子牛生産における事故に備える為に、家畜共済対象外の互助制度を行うことと、互助制度の基金造成に補助する事で飛騨牛の生産経営安定の役立ち、生産意欲の向上に結びつく。
	C(0) 結びつかない			
	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある		
C(0) 少ない、減少している				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C	畜産農家の減少により、受益者は216戸となっている。
	C(0) わずかな受益者に限定される			
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
C(0) あまり順調でない (75%未満)				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	A	この事業を行う事で飛騨牛の生産経営安定の役立ち、飼養頭数減少の歯止めに役立つ。
	C(0) 見直しが必要である			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
C(0) 対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	A	農家負担50%、高山市25%に加え、JA25%を負担いただいており、十分に工夫されている。
	C(0) 対応していない			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	B	高齢化や病気、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H21→22 戸数▲3.6%、頭数▲1.9%)
	C(0) 改善が必要である			
	合計			

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のための基金造成に対して一部(1/4)助成する。				
総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・対象頭数の1~2%の流死産事故が毎年発生していることから、肉用牛の増頭・繁殖経営の安定を図るため、引き続き実施する必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	900	900	0	900	900
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	900	900	0	900	900

予算要求の概要	飛騨牛生産にかかる流死産及び子牛事故の互助を実施し、繁殖経営の安定と、意欲的な飛騨牛の改良増殖を図るための飛騨牛生産事故見舞い基金造成に要する経費に対する助成
要求額増減理由	
事業実施の課題	組合員相互の連携強化と意欲的な「飛騨牛」の改良生産強化

財務部査定 の考え方	・要求どおり
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52250	飛騨食肉センター運営整備事業	担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1 一般会計	政策	3 「にぎわい」のあるまちをめざして		
	款	5 農林水産業費	分野	1 安定した畜産経営環境を整備する		
	項	2 畜産業費	基本施策	2 安全で安心な畜産物の供給		
	目	2 畜産振興費	施策	4 畜産関連施設の整備		
実施計画事業	飛騨食肉センター助成事業、畜産関連施設運営事業、家畜防疫衛生事業					
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	牛・豚・鶏	受益者数	276 戸
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成 		
前回の評価からの改善・改革のポイント	安全・安心な食肉の安定供給と「飛騨牛」の海外販路の拡充			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
成果指標	① 肥育頭数	頭	目標値	6,500	6,500	6,500	6,500
			実績値	6,228	6,222	6	-
	算出根拠等 頭羽数調査より		達成率(%)	96	96	0	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	②		目標値				
			実績値				-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	① 肥育戸数	戸	目標値	50	50	50	50
			実績値	49	44	44	44
	算出根拠等 頭羽数調査より		達成率(%)	98	88	88	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	②	%	目標値				
			実績値				-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)		67,166	65,885	69,285	68,300		
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		67,166	65,885	69,285	68,300		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		1,370,735	1,532,209	1,385,700	1,366,000	
		受益者 肥育戸数 (B)	49	43	50	50	
	②						
算出根拠等 頭羽数調査より							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	A	全国ブランド化に向けて共進会の上位入賞や海外販路の確立に向けて進んでいる。
	C(0) 結びつかない			
	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある		
C(0) 少ない、減少している				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	A	食肉センターの運営がスムーズにいくことにより市民へ安定的に牛肉、豚肉が提供できる
	C(0) わずかな受益者に限定される			
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
C(0) あまり順調でない (75%未満)				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	A	各種助成を行うことによって食肉センターの運営がスムーズに進み安定的に安全な食肉が市民に提供できる。
	C(0) 見直しが必要である			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
C(0) 対応していない				
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	B	食肉センターの安定的運営の指導
	C(0) 対応していない			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	A	適正である。
	C(0) 改善が必要である			
	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	A	適正である。
C(0) 改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である		
C(0) 改善が必要である				
合計	16.0 / 20.0		100点換算	80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善						拡大		縮小		廃止の検討		完了	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安全・安心な食肉の安定供給と「飛騨牛」の海外販路の拡充														
総合評価(二次評価)	・食肉センターに対する各種助成については、当面は現状での継続が見込まれるが、センターの経営改善を促していく必要がある。													
議会からの提言等														

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	69,285	68,142	△ 1,143	68,145	68,145
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	69,285	68,142	△ 1,143	68,145	68,145

予算要求の概要	畜産振興と安全・安心な食肉の安定供給のための助成
要求額増減理由	
事業実施の課題	管内市村が連携した振興策の実施 食肉センターの経営改善

財務部査定 の考え方	・要求どおり
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	52255	飛騨牛震災対策事業費		担当課	農政部畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業	
	項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する	
	目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備	
実施計画事業							
市長の約束	3	産業の柱として農業・林業・畜産業を確立します。 ・畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化 ・飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組みます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	農業者(肉用牛、肥育農家)	受益者数	276 戸
目的	安全・安心な地域産飼料の利用を促進(安全性に疑いのある飼料の利用を回避)することにより、飛騨牛ブランドの保護育成・耕畜連携した地域の農業振興を図る。事業継続のための融資の無利子化等を図ることにより経営の継続・安定化支援を行う。		
概要	岐阜県制度融資に対する保証料補給、JAひだ制度融資に対する利子補給 市内の肉用牛農家が、飛騨地域の稲作農家から、はさ干の稲わらを購入した場合、10aあたり10,000円を市が助成 地域産稲わらの確保支援、資金的支援		
前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	① 融資利用農家	目標値	-	-	30	30	
		実績値	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
成果指標	② 収集稲わら面積	ha	目標値	-	-	100	200
		実績値	-	-	100	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	100	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
コスト面	①	目標値	-	-	-	-	
		実績値	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
コスト指標	① 受益者	(A/B)	-	-	-	-	
		(B)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)	(A)	-	-	20,000	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)	-	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	-	-	-	-		
コスト指標	① 受益者	H21	H22	H23見込	H24計画		
		(A/B)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	評価対象外	H23新規事業のため
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	評価対象外	
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	評価対象外	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	評価対象外	
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	評価対象外	
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	評価対象外	
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	0.0 / 0.0		100点換算	/ 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	安心・安全な飼料の提供、耕畜連携による飼料自給率の向上を図るうえで継続して実施する。				
総合評価 (二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
議会からの 提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	-	16,000	16,000	12,250	12,250
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	-	16,000	16,000	12,250	12,250

予算要求の概要	保証料・利子に対する助成の継続 稲わらの確保支援
要求額増減理由	平成23年度補正予算における制度創設による増
事業実施の課題	畜産経営の安定的継続 風評被害の防止

財務部査定 の考え方	・積算内容を精査 ・H23補正予算による震災対策の継続
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり